

キャンプで気仙沼に大学生を呼び込み地域を活性化させることができるのか

1202D班

I 序論

「おかえりモネ」などの効果で気仙沼を訪れる観光客は増えているが、若い観光客はまだ少ない印象。

今、日本ではコロナ禍の影響もあり、キャンプなどのアウトドアブームが起こっている！！

気仙沼にもキャンプ場が2つある。(大島・唐桑)

仮説

多くの大学生(ターゲット)にキャンプをきっかけに気仙沼に来てもらい、その中で気仙沼の観光や食に触れてもらい、リピーターとなってもらえば若い観光客の増加につながり地域を活性化させることが出来るのではないかな？

IV 結論・まとめ

・これらのことから、ターゲットである大学生を呼び込める要素は揃っていることが分かる。しかし、宣伝方法がホームページの更新のみでは浸透していく見込みがほぼ0に近い。SNSでの更なるPRの力が必要であるのが今の現状だ。

・再びコロナウイルスの感染も広がっている中なので、ターゲットを大人数ではなくソロキャンプに来る若い世代(大学生)にして、そのニーズに応えられる取り組みを企画して実現させることが観光客増に大きな効果を生むと感じた。

II 本論

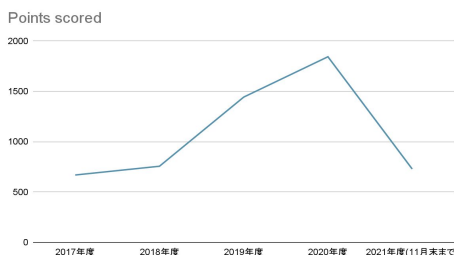
調査対象

大学生 → アンケート等には難 → 施設の方に聞いてみることに

調査方法

・御崎野営場(唐桑)へのFW(2021・12月4日)

1 野営場でキャンプをする人は年々増加傾向



・コロナウイルス感染拡大後も利用客が増加した要因としては、ソロキャンプの需要が高いことが挙げられる。

☆なぜソロキャンプ需要が？

・御崎野営場の特徴がその理由 → あまり大きくない施設、自然豊かで静か。1泊450円という安さ、年中無休(年末年始も！)

2 キャンプのついでに楽しめるコンテンツも増えている

☆宮城オルレ(唐桑コース)

・実際にオルレ目的に来た観光客の野営場の利用も多いと聞いた。トレッキングといえば高齢の方のイメージもあるが、最近は若い世代も増えているらしい。

III 結果

- ①御崎野営場では、年々キャンプをしに訪れる人が増加していること
- ②お客さん呼び込むためにホームページを更新したりしていること(新型コロナ拡大の時期は、拡大を抑えるために更新を控えた)
- ③ここでもしか味わえない魅力として、海の風や自然を体感でき、静かに過ごせるので、ソロキャンプにも最適なこと
- ④キャンプの他に、オルレ(※参照：Ⅱ本論2)が毎年開催され、若者の需要が増えていること

・これらを今回の調査で知ることができた。また、①の、利用者数が増加傾向である理由として、御崎野営場がオルレの拠点であるためや、インスタグラムなどのSNSを通じたソロキャンプブームの影響などが挙げられる。

〈協力〉

御崎野営場HP→

<http://www.karakuwa.com/stay/%E5%BE%A1%E5%B4%8E%E9%87%8E%E5%96%B6%E5%A0%B4/>

参考文献

- ・野営場で頂いた利用状況の資料
(折れ線グラフに活用)